

ハスヌマ通信 第2号

牧之原市について考える個人紙

2021.8.15 発行

発行人 板倉直壽 (なおひさ) TEL/FAX 0548-29-0961

住所 〒 421-0411 静岡県牧之原市坂口 2142 番地 1

印刷所 アスクル (株) 東京都江東区豊洲 3-2-3

1、自己紹介② 私の略歴

1951年、旧清水市生まれ。静岡県立静岡高校、慶応義塾大学経済学部卒。学習塾の講師をしながら弁護士を目指して司法試験の受験を続けるも力及ばず、ついに断念。1993年に行政書士登録をし、1995年に東京銀座の一角に小さな行政書士事務所を開きました。しかし、その後も学習塾(日能研)で算数講師として働き、そちらが主たる収入源でした。2013年末、事務所ビルの解体を機に、62歳で父の故郷、坂口に転居しました。1995年ごろ、古い母屋は住みにくかろうと、母のために別棟を改築しましたが、自分がそこに住むことになるとは思いませんでした。人生は予測できないことばかり。現在は静岡県行政書士会会員(榛原支部所属)。



2、第2号の主題

(1) 坂部区(旧坂部村)の『慰霊塔』に戦没者の個人名を刻んだ碑が欲しいと思います。

沖縄県糸満(イマン)市の摩文仁(マブニ)の丘にある『平和の礎(イジ)』(イジは沖縄方言)には沖縄戦などで亡くなられた方々の氏名が刻まれています。沖縄県営平和祈念公園のホームページによると、慰霊碑は全長2.2kmで、刻銘されている人数は24万1,525人(2018年6月1日現在)、「敵味方関係なく戦没者全ての氏名を刻んで記念するものである」とあります。

また、牧之原市でも、小堤山公園にある『慰霊碑』のそばには旧相良町出身の戦争で亡くなられた方々の芳名碑が建てられていますし、榛原公園にある『忠魂碑』のそばには、静波、細江、川崎出身の戦争で亡くなられた方々(英霊)の『戦没者芳名碑』が、また、勝間田公園には旧勝間田村出身の方々の『祭神名簿』があります。

しかし、私が住む坂部区(旧坂部村)の『慰霊塔』(右写真)には何故か芳名碑がありません。慰霊塔だけでは何故か物足りない、個人名の碑が欲しいと思うのは私だけでしょうか。亡くなった方々の魂が地上を見て公の場に自分の名前を見つけたら少しは安心されるのではないかと思うのは私の妄想でしょうか。氏名は生きた証です。故人の話をすることは供養になる、と聞いた事がありますが、公の場で氏名が人目に触れるだけでもささやかな供養になるような気がします。できれば、隠れた場所ではなく、人目につきやすい明るい場所がよいと思います。



そのために、できれば市が責任者となって、しかし公費や各戸割り当て金ではなく、有志の寄付金で建てることができたら、戦後の平和を享受する1人1人の感謝の真心が示されることになるような気がします。

最近インターネットで、全国にある戦没者慰霊碑の多くが老朽化し、修理や管理に当たる遺族会の方々が困っているという記事を見ましたが、費用や労力の負担を遺族会にだけ負わせるのは筋違いな気がします。亡くなった方々は戦場に赴いて国家や国民の為に命を捧げた方々ですから、遺族より一般市民こそが負担するのが筋ではないでしょうか。

なお、芳名碑ができれば、たとえば毎年の小学校の課題として、生徒1人が戦没者の方1人を選び、その人生を調べて発表していくなどの活動をしてもらえたら、亡くなった方々も蘇り、生徒もより深く戦争や人生を知る機会になるのではないかと、勝手に空想しています。

(2) 牧之原市の文書や事業の名称に、分かりやすい日本語を使って欲しい。

私は時々牧之原市のホームページを読みますが、自分の勉強不足もあるものの、分かりにくい言葉が多いと感じています。調べないと分からない言葉が次から次へと出て来て、すーと読み進むことができず、これでは市役所と市民間の意思疎通に支障をきたすのではないかと思うことがよくあります。ホームページや市の公報は市の考えや情報を市民に伝えることが命である以上、できる限り分かりやすい言葉を使うべきではないでしょうか。

では何が分かりにくいかというと、多くの場合が**外国語の濫用**にあります。外国語をそのままカタカナで表した言葉が氾濫していることです。もちろんこれは牧之原市の文書(ホームページ、公報など)に限ったことではなく、国や県の文書、マスコミの報道も同様かと思えます。しかし、市は独自の基準と判断で言葉を取捨選択し、**牧之原市の言葉**として、100人の老若男女がいればその大多数の人が**“すつと理解できる”**、あるいは、できそうな言葉を使うことができるはずで

その為には、まずはカタカナ語(外国語)を全部とは言いませんが半分ほどには減らして、訳語があれば訳語を、なければ簡単な漢字で訳語を作って使ったらよいと思います。

たとえば、コロナ禍でよく使われる、クラスター、パンデミック、ロックダウン、ピークアウトする、などの言葉は専門家や一部外国人が使う言葉を直接持ち込んだ印象がありますが、日本人には知らない外国語です。1年半聞き続けても未だに口にする気にならないのは私が頑固だからでしょうか。しかし、集団感染、世界的大流行、都市封鎖、頂点に達する、と言え、初めから分かります。このような分かりやすい訳語があるのに何故使わないのでしょうか。仕事で毎日使う人はじきに慣れるでしょうが、一般市民は立場が違います。立場の違いを考えないで、専門用語や業界用語をなぜ安易に使うのでしょうか。もし、分かりにくい言葉をそれと気づかずに使うなら教養がないと言わざるを得ませんし、気づきながらも使うなら無神経というべきでしょう。どちらにしても、お互いの意思疎通の障害にしかありません。

他にも、牧之原市の事業には、**デマンド乗合タクシー**とか**ユニバーサルデザインタクシー**なる言葉も出て来ますが意味が分かるでしょうか。前者は**予約型乗合タクシー**、後者は**牧之原市福祉タクシー**ともいい、これらの言葉も使われているのですが、名称に、わざわざデマンドとかユニバーサルデザインなどの分かりにくい言葉を使っているのです。どうしてでしょうか。利用者ば覚えられても、利用しない人はいつまでも、何それ?ということにならないでしょうか。これらはほんの一例で、同じような事例がまだまだ山ほどあり、牧之原市のホームページを読みながら分かりにくい言葉を書き出していくと、小さな辞書ができてしまいそうです。

ここは日本、私たちは日本人。分かりにくい外国語を濫用しないことを**牧之原市の精神**とし、牧之原市の文書は分かりやすいと言われるようになって欲しいと思います。そして、他の自治体や国のお手本になることを願っています。これも牧之原市から日本を変える可能性の1つだと思います。お金は不要です。ちょっと頭を使うだけです。

ちなみに、静岡県は、「**言葉の壁のない静岡県**」を実現するため、やさしい日本語の普及に取り組んでいるそうです。外国人、子ども、おとしより、障がいのある人などを意識して、難しい言葉をわかりやすい言葉に言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語を使う運動だそうですが、すばらしいと思います。私がここで述べたこととは少し内容は異なりますが、『**意思の疎通を意識してわかりやすい言葉を使う**』という点では全く同じ思想だと思います。

+++++

■後書き■ 最後までお読み下さり有り難うございます。今回も板倉本人が自分の足で戸別に配布させていただきました。拙い内容ですが、御意見を頂ければ幸いです。第1号は、坂部、勝間田、細江、静波を中心に配布しましたが、街の地図が少しづつ頭に入り、その分身近に感じられるようになりました。尚、私はマルクス主義者でも戦前回帰的な天皇主義者でもありません。これら全体主義に対峙する意思を持った自由主義者のはしくれです。